



【看護部研究発表会】

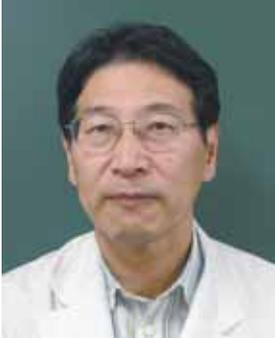
【看護部会研修風景】

- 日本がん治療認定医の指定を受けて
- 各科だより …… 整形外科・眼科・耳鼻咽喉科
- 病棟紹介 …… 1-5病棟
- 患者様満足度調査から …… H20年度「入院患者アンケート」結果
- 看護部より …… 管理者研修会・研究発表会
- その他 …… 「ゆうゆう」からのお知らせ
…… 診療科名変更のご案内



■ 編集・発行 ■

がん治療認定医の指定を受けて



泌尿器科部長

滝花 義男

「がん治療認定機構」のがん治療認定医の指定を目指して、はじめに当機構のがん治療教育医を取得し、同時に当院のがん治療認定教育施設の認定も取得（県内では当施設も含め 4 施設です）、その後今年の 4 月にがん治療認定医に認定されました。

がん治療認定医の指定を受けるためには、認定医試験に合格しなければなりません。試験では癌の基礎知識の試験以外に各疾患の治療の試験もあります。基礎知識は、癌の生物学・腫瘍免疫学・癌の発生要因と予防・統計学や病理学・化学療法や放射線治療が主です。各論は消化器や血液の腫瘍、はては婦人科や骨腫瘍などほとんどの領域の治療法についての試験となっています。一応テキストから出題されるのですが、内容が膨大すぎて覚えるのに四苦八苦しました。

癌治療に関しては、外科治療以外に抗癌剤などの薬物療法や放射線療法に関する総合的知識が必要です。さらに癌診断から終末期医療の知識や癌の生物学・免疫学や癌予防についての知識も大事です。しかし実際の医療現場では、癌に対する総合的な知識を有していない医師が治療していることが多々あることも残念ながら事実です。更に山梨県では「がんセンター」等の癌治療の専門病院がありません。つまり患者さんは、担当医が癌治療の知識や経験がどれ程あり、はたしてそれが十分かどうかなどは分からず治療を受けているわけです。

泌尿器科は、腎細胞がん・腎盂尿管がん・膀胱がん・前立腺がん・精巣がんと癌の種類も多いにもかかわらず、県内の泌尿器科医では、癌治療の専門家はほとんどいないと言ってよい状況です。私は山梨大学医学部泌尿器科講師時代から泌尿器科の癌治療に専門的に携わってきましたが、残念ながら患者さんには、私が癌治療の専門家であることは分かりません。なんとかそのことを知っていただき、安心して治療を受けていただきたい。これが、がん治療認定医機構「がん治療認定医」の取得の必要性を感じた大きなきっかけです。

県内には泌尿器科を含めて癌の専門家がまだまだ少ないのが現状です。さらに、がん治療認定医自体の知名度もまだ低く、医療関係者でも知らない人も多いと思います。しかし、当院が「がん診療連携拠点病院」として東山梨地域の癌診療の中核的な役割を果たさなければならないことを考えると、今後他科の先生方もがん治療認定医資格の取得をされることを強く希望するものです。

「日本がん治療認定医機構」とは

がん治療水準の向上を目指し、その共通基盤となる臨床腫瘍学の知識、基本的技術に習熟し、医療倫理に基づいたがん治療を実践する優れた医師（がん治療認定医）の養成と認定を行うために 2007 年に日本がん治療認定医機構が発足しました。

がん治療認定医機構に関する詳しい情報は、機構ホームページ (<http://www.jbct.jp/>) で!

整形外科を紹介します



整形外科部長

神山 慎二

整形外科というと、美容を扱っている診療科と勘違いしている人が残念ながらまだまだ多くいらっしゃいますが、整形外科は、四肢・脊椎など運動器官の外傷、疾患を扱っています。車で例えれば、内科はエンジンや燃料を扱い、整形外科はこれらを乗せている車体を扱っていると言えます。人では、具体的には腰痛・膝関節痛・肩こり・骨折などであり、内臓器官と頭部以外は、ほぼ整形外科の扱う分野となるといっても過言ではありません。(ちなみに、美容外科はありませんが、当院には綺麗なスタッフが多いと思っているのは私だけでしょうか?)

また、整骨院、鍼灸院、整体・カイロプラクティックなどと混同している方も多いのですが、これらの施設には医師はおられませんし、当然レントゲン等を撮ることもできません。腰痛・肩こりのような症状の影に深刻な疾患が隠れている可能性も無きにしも非ず。まず医師のいる整形外科を受診することをお勧めします。

高齢化社会が進行しており、関節疾患・脊椎疾患の患者さんが近年増えています。外来では多くの患者さんに膝や肩・腰の注射を行っています。最近、外来診察時によく聞かれます「膝が痛いけれど、グル○サミン・コンド○イチンを飲んだら効きますか?」(商売の邪魔をするつもりはありませんので、詳しくは述べませんが-----) こうした商品は、健康補助食品であり医薬品ではありません。あくまでもサプリメントですので、そのつもりでお飲みになったほうがよいでしょう。

ところで膝の痛みが強くて歩行も困難な方には右写真のような手術を行うこともあります。

「人工膝関節置換術」と言いますが、このような手術の場合、当院では自己血採血により、極力輸血を回避するようにしています。



【整形外科外来スタッフ】



左上から

岩窪 武(塩山市民病院)
守屋 修二(医長)
佐藤 英昭(医長)

左下から

田村 圭(事務)
小田切房子(准看護師)

眼科を紹介します

眼科部長 小清水 正 人

現在、眼科外来スタッフは、医師 1 名（私；小清水）・看護師1名・ORT（視能訓練士）1 名・クラーク1 名の 4 名体制（随時変更もあります。）で診療を行っています。

眼科外来の特性上、視力や眼圧測定等、検査の種類が多く、患者様が多いときなどは受付や電話の対応も含めなかなか大変です。しかし当科スタッフは、優秀な方が揃っており技術的に難易度の高い検査でも信頼できる結果を導いてくれ、非常に助かっています。

医師 1 名では、対応できる治療にもおのずと限界があり、ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、患者様の立場に立った医療の提供に精一杯努めますので、今後ともよろしく願いいたします。

【眼科スタッフ】



左上から
古山千文(看護師) 赤岡 愛(准看護師) 舟久保亜紀(視能訓練士)
左下から
五味志穂(看護師) 小清水正人(部長) 佐野麻美(事務)

耳鼻咽喉科を紹介します

耳鼻咽喉科部長 河 西 圭 子

当科は、現在常勤医師1名（私;河西）ですが、山梨大学医学部より耳鼻咽喉科教授;増山敬祐先生と元山梨県立中央病院院長の赤星至朗先生という、県内の耳鼻咽喉科診療では屈指の先生方に非常勤医としてのご協力をいただき、診療を行っております。

赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年代にわたって、さまざまな病気・症状の方がお見えになりますが、患者様のお気持ちにそった医療、また少しでも多くの患者様にご満足いただける医療を目指して、看護スタッフ共々、日々頑張っています。風邪や気管支炎の流行により、これからの季節、毎年受診患者様が増加し、待ち時間が多少長くなる傾向にあります。なるべくお待たせしないスムーズな診療体制を心がけておりますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

【耳鼻咽喉科スタッフ】



持ちにそった医療、また少しでも多くの患者様にご満足いただける医療を目指して、看護スタッフ共々、日々頑張っています。風邪や気管支炎の流行により、これからの季節、毎年受診患者様が増加し、待ち時間が多少長くなる傾向にあります。なるべくお待たせしないスムーズな診療体制を心がけておりますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

左上から
内藤裕美(看護師) 藤田友美(事務) 小林春香(事務)
左下から
斉間京子(看護師) 河西圭子(部長) 平松知恵(看護師)

一生勉強・懸命看護／一生懸命な1-5病棟です!

私達は安心・安全な医療を提供することに全力で取り組んでいます

1-5病棟 看護師長 鶴田延江

当病棟は小児科18床・整形外科28床の2科1単位の病棟です。

看護師 22 名・准看護師 2 名・看護助手 2 名・クラーク 1 名；総勢 27 名のスタッフが「笑顔で明るいチームワーク」をモットーに、ご家族の皆様も含め患者様が安心して入院生活が送れるように、また一日も早く社会復帰ができるように看護・援助させていただいております。

小児科チーム

生後数日の乳児から 15 歳までのお子様を中心に主に、肺炎・気管支炎・喘息等の疾患治療、看護を行っています。

ご家族・親御さんの思いに添いながら、愛情を持って毎日のケアに取り組んでいます。

【小児科スタッフ】



7月16日・入院中のお子様とご家族を交え夏祭りを行いました。
スタッフ手作りのゲームや、病院を代表する美ィナスによるダンスありと、日頃の辛い治療を吹き飛ばす楽しい時を過ごしました。

左上から 山岸富子(助手) 駒井美紀(看護師) 加藤みどり(事務) 吉野絵美(看護師) 土橋恵理(看護師) 中村友紀(看護師)
左下から 原 裕美(看護師) 高橋篤美(副主任) 新谷秀美(副主任) 依田かおる(看護師)

整形外科チーム

転倒による「大腿骨頸部骨折」「大腿骨転子部骨折」「腰椎圧迫骨折」の疾患に加え、「変形性膝関節症」等の疾患に対応しており、ご高齢の患者様の割合が多いのが特徴です。多くが転倒等の思わぬ事故による突然の受傷であり、手術

が必要となります。また、手術後早期からのリハビリが生活の質(QOL)・日常生活動作(ADL)の向上には有益であり、当院では手術翌日より患者様の状態に合わせたリハビリを行い、社会復帰に向けた看護・援助に力をいれています。

【整形外科スタッフ】



左上から

岸本千恵子(助手) 深澤由美子(准看護師) 廣瀬摩奈美(看護師)
奥倉清美(准看護師) 早川真世(看護師) 戸田美希(看護師)
梶田亜矢子(看護師) 手塚 悠(看護師) 小田切清美(看護師)

左下から

芦澤綾香(看護師) 早川小百合(副主任) 鶴田延江(師長)
大村真由美(看護師) 山下梨香(看護師)

患者様満足度調査報告

～入院患者アンケート調査より～

広報委員会委員長 池田久剛

平成 20 年 9 月 1 日から 10 月 31 日の 2ヶ月間にわたり、一般病棟に入院されている患者様を対象にしたアンケート調査を実施しました。患者様満足度調査は平成 13 年より実施しておりますが、従来は特定期間（1ヶ月間）に退院された患者様にアンケート用紙を郵送し、回答も郵送で回収するといった費用面、労力面でかなりのスタミナを要する方式で行って来ました。今回は、昨今の省エネではありませんが、病棟において患者様にアンケート用紙を直接配布し、記入後は病棟に設置してある「患者様ご意見箱」に投函していただくか、病棟スタッフにお渡しいただく（別途用意した封筒に入れて）といった、より簡素化した方式を採用しました。

有効回答数は 278 枚で、9 月・10 月の新入院患者数 850 人で除した回答率は 32.7%となります。但し 850 人の中には、救急患者や重症患者等（アンケート自体が無理な患者様）もかなり含まれており、これを加味すると、回答率は 37～40%程度になると思われます。10 点満点の総合評価では、8.57 点という評価でした。コメント欄に記載されたご意見も含め、個々のアンケートに対する精査、病棟へのフィードバック等をこれから行う予定です。

以下に設問項目ごとの回答結果（構成比）を記載します。

診察サービス面



接遇・対応面



施設・整備面

病室内の設備（ベッド・寝具等）	37%	48%	11%	3	1
病室内の清掃、清潔感	37%	42%	16%	2	3
トイレ・洗面・給湯設備	35%	41%	16%	5	2
トイレや洗面所等の清掃・清潔感	37%	38%	21%	2	2
売店・喫茶室・自動販売機	26%	48%	17%	1	3
案内看板や表示のわかりやすさ	26%	53%	16%	2	3
パンフレット類のわかりやすさ	33%	47%	12%		8
ホームページのわかりやすさ	21%	28%	11%	1	1
病棟全体の雰囲気	27%	46%	20%	1	4

職員専用ストレス相談室 「ゆうゆう」から

～ 『自分らしさ』を大切に ～

職員専用ストレス相談室（臨床心理室） 竹居 栄子

「私だけみんなと同じにできないんです」と訴えるOLさん、「他の子はみんなできるのに、どうしてうちの子だけできないんでしょう」と嘆くお母さん。カウンセラーになってから、「みんなと同じにできない」という評価に傷つき、『自分らしさ』や『うちの子らしさ』を信じられなくなってしまった相談者の苦しみを数えきれないほど聴いてきました。そのたびにとっても切ない気持ちになります。

私達はそれぞれ違う環境に育ち、ひとりひとり顔が違うように、ものごとの感じ方や考え方、好みや得意不得意も千差万別です。働く人について言えば、その唯一無二のその人らしさが大切にされる職場であって欲しいと思いますし、「みんなと同じ」でなくても、その人に合った職場で、その人に合った働き方で、生き生きと仕事ができることが大切だと思うのです。もし今ストレスのために心身の調子を崩して仕事調整や仕切り直しが必要なら、またいったん休んで復帰のためのリハビリテーションが必要なら、なおさら「今の自分に合った」働く場、働き方を選ぶことがあっても良いと思うのです。

幸い当院には、関わる患者様によって雰囲気や時間の流れ方の違う様々な働く場（病棟、部所）があります。また、特に人手を多く必要とする看護部では、自分に合った勤務時間、仕事内容を選んで働く人も貴重な戦力です。「自分だけそんな特別扱いは…」と思うかもしれませんが、誰にとっても明日はわが身、いつ自分や家族の具合が悪くなるかもしれないし、お互い様なのです。その人らしい働き方を認めてくれる職場は、今「みんなと同じ」に働いている人にとっても、安心して働ける場であると思います。一つの職場に様々な、自分に合った働き方をする人が自然に共存するようになったら、「みんなと同じにできない」苦しみは随分軽くなるのではないのでしょうか。

冒頭で述べた OL さんも、カウンセリングを受けるうちに『自分らしさ』に目を向けるようになり、それに合った働き方を考えられるようになりました。「みんなと同じ」を目指していた時には萎縮してしまっていた力が、自分に合った場を得て発揮されるようになり、見違えるように生き生きとしています。『自分らしさ』に自信もついて、少々のことにはへこたれなくなりました。ですから、カウンセラーとして確信を持って言えるのです。「みんなと同じ」より『自分らしさ』を大切に。

*文中の相談例は実在の個人のものではなく、筆者の経験から要点を集約したものです。

看護管理者研修会

看護管理者研修会は、看護管理者としての資質の向上、及び管理者相互の連携を図り、業務を円滑に進めるために年3回実施されています。今年度は、「こんな病院・病棟にしたい!」をテーマに、業務管理・人事管理・教育管理に関する知識・技術を学び、「専門性を生かした看護の実践」「働きやすい職場作り」「優秀な人材の育成」等の今年度看護部目標を達成するために必要な研修を企画、実施しています。

11月15日(土)午後から行われた第2回研修会では、講師に山梨県立大学教授 文珠 紀久野先生をお招きし、コミュニケーションに関する理解や方法についての講義を受けました。“エゴグラムにより自分自身の性格・行動傾向を知ることによって自己理解を深め、他者への接し方を考える”等々、非常に有意義な学習ができたと思います。

全ての人から「いい病院だね---」と選ばれる「マグネットホスピタル」を目指し、これからも看護管理者が率先して研鑽を積まなければならないと考えています。

看護管理者教育委員会 古屋 妙子

看護部研究発表会

毎年恒例の「看護部研究発表会」が11月29日(土)午後より開催されました。今年は、同じ山梨厚生会グループの甲州市立勝沼病院と山梨市立牧丘病院、両院の看護課も参加され、参加者は60名以上と、会場は熱気に包まれました。当発表会は、この時期ですからそれぞれ病棟ごとの看護の集大成が披露できるどころであり、参加者にとっては広い分野の知識が得られる場でもあります。

各病棟・部署とも独自の機能を持っているため、その特殊性を活かし内容の充実・質の向上に取り組んだもの、看護技術に工夫を凝らしたユニークな取り組みの紹介、また近年社会的にも話題になっている「メタボ」に目を向けた看護に取り組むところも現れました。研究発表会といっても実際は目の前の患者様にとって一番良い看護ができるように取り組んだ実践報告会であり、この学びを日常業務に活かすことが目的です。こういう私たちの思いが、発表会として30年以上も継続してきた大きな原動力であるといえます。

看護部教育委員会 古屋 美代子

私たちと一緒に働きませんか

東山梨地域の急性期医療を支える中核病院（山梨厚生病院・塩山市民病院）、地域に密着して地域住民の健康と命をまもる支援病院（甲州市立勝沼病院・山梨市立牧丘病院）、居宅での療養と介護をお手伝いする介護保険施設（ハートフル塩山）……(財)山梨厚生会グループでは、きっと貴方にあった職場が見つかります!

診療科名が変更となります!

患者様や地域の方々が自分の病状等に合った適切な医療機関の選択を行うことができるよう、標榜（広告）可能な診療科名の見直しが本年4月1日より施行されました。一例をあげますと、従来標榜（広告）してきた「呼吸器科」「循環器科」「消化器科」等の科名が使用できなくなるなど、当院でも対応が必要な点があります。以下に、当院の旧科名と新科名を列記します。なお9月1日より看板・院内掲示等順次新科名に切り替えております。

【旧標榜科：23科】

内科・循環器科・消化器科・呼吸器科
外科・整形外科・肛門科・脳神経外科
心臓血管外科・呼吸器外科・泌尿器科
皮膚科・精神科・神経科・耳鼻咽喉科
眼科・婦人科・小児科・リハビリ科
放射線科・麻酔科・歯科・歯科口腔外科



【新標榜科：26科】

内科・循環器内科・消化器内科・呼吸器内科
腎臓内科・糖尿病内科・外科・整形外科・肛門外科
脳神経外科・心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科
泌尿器科・皮膚科・精神科・神経内科・耳鼻咽喉科
眼科・婦人科・小児科・リハビリ科・放射線科
麻酔科・歯科・歯科口腔外科

ご意見、自主投稿をお待ちしています。次号は平成21年5月発行の予定です。